

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所前の研修で、職員全員で意見を出し合い、理念を決めた。その理念を掲げ、みなで取り組んでいる。	開所して1年2か月の新しい事業所である。開所前に職員全員で決めた理念は、職員一人ひとりの思いが込められた文言で、常に身近にあり皆で同じ方向性を持ち日々の支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のコミュニティー施設で行われている、お茶の間や地域行事に積極的に参加し、地域住民と交流している。	近隣のコミュニティーセンターで開催される地域の茶の間に利用者と共に参加し料理作り、リース作り、体操を地域の方と楽しんだり、豆まきやクリスマス会等の地域の行事にも参加するなど、地域の方々と触れ合う機会がある。また事業所の多目的ホールを地域に開放し、行事の打合せや相談等にも利用され、相互に行き来があり地域に根ざした事業所である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多目的室の利用、行事にお誘いする等、地域住民に気軽に立ち寄って貰える工夫をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会からの参加も少ない。また、包括支援センターの参加も殆どない状態であった為、現在は利用者全員参加の会議としている。会議後半に茶話会と題して、意見交換の場を設け、要望等を支援に取り入れている。今年度より、自治会役員の参加がある予定。	会議への参加依頼は他方面に働きかけているが思うようには参加が得られない現状の中、事業所として一番意見を頂きたい利用者が全員で参加できる会とし、各関係機関の出席者と共に意見を出し合い、より良い運営に繋がるよう話し合いがなされている。出された意見は職員間で検討しサービス向上に活かすよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開所前に、様々な指導、意見を頂いた。	開所時には様々に意見、指導を頂き頻繁に出向く事もあったが、開所後は質問事項はファックスでのやり取りが基本となっている。事業所としては包括支援センターとの関係性を強化していくと共に、連携が必要な事項については積極的に役所に出向き意見を頂くよう働きかけていく方針である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に、日中、ユニット出入口、玄関の施錠はせず、入居者に閉塞感を与えないよう努めている。但し、離接等の危険回避のため、玄関に赤外線センサーを設置している。また、職員体制の手薄な時間帯に限り、ユニット出入口の施錠を行っている。	新しい事業所で、比較的自立度の高い利用者が多く、ユニット内は自由に過ごしている。ユニット出入口、玄関の施錠は基本されておらず、夜間、職員の手薄となる場合のみ施錠している。今後日々変化する利用者の動向には、職員全員で注意を払い利用者の安全確保に努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業者は、職員の研修体制を整えており、内外部の講師による研修を行っている。また、職員のストレスにも注意し、対応、防止に努めている。	虐待についての研修は定期的実施され職員全員理解している。日々の支援の中で何気ない言動が虐待に当たらないか、振り返りの機会を持ち、職員相互に確認し合い支援に努めている。また管理者は職員の疲労やストレスには注意をはらっており、意見の出しやすい雰囲気作り、働きやすい環境づくりに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業者は、職員の研修体制を整えており、内外部の講師による研修を行っている。また、実際に後見制度を利用している利用者があり、現場でも制度を学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を行い、ホームでの対応範囲や困難な場合についても説明を行い、納得してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催したり、運営推進会議に家族より参加してもらい、意見、要望等を直接聞く機会を設けている。また、管理者は、利用者との関りの中で意見や要望を聞き、職員と協議し、実現に向けて迅速に取り組んでいる。	家族会、運営推進会議参加時、随時の面会時に意見を頂いている。利用者からは日々の関わりの中で意見要望を聞き、頂いた意見は時間を置かず職員間で話し合い、できる範囲で実現できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員会議の出席や、日々の朝礼等で、職員から直接意見等を聴き、吸い上げるよう努力している。また、管理者は月に1度の本社会議や定期報告にて、代表者に職員の意見等を伝える機会がある。更に、職員から取締役への直通ホットラインを設けている。	2ヶ月に一度、職員全員参加のユニットミーティング、日々の朝礼、申し送り時、必要に応じ随時の面談など、職員が意見を出せる機会は多くある。管理者、主任、リーダーは「聞く姿勢」を大切にし、意見を出しやすいよう努めている。現場職員の意見は管理者を通じ本社会議や定期報告にて伝えると共に、現場職員が直接上層部へ意見を伝える事のできるホットラインも設置されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全職員に資格取得を奨励し、資格取得(介護福祉士)の為の特別休暇が利用でき、資格取得者には祝い金や資格手当を支給するなど、励みとなるような制度を設けている。また、夏季休暇(3日)冬季休暇(3日)を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員教育担当を決め、サービスの質の向上に取り組んでいる。教育担当者は、各管理者へ個々の力量の把握を指示。能力に合わせ個別に指導している。また、外部の研修参加へも研修費の助成を行うなど、推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議参加をお願いするなど、お互いに、相談・意見交換のできる事業所がある。また、利用者の支援を通して相互訪問を行う等、協力体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し、家族の意向や本人の気持ちを伺い、安心して暮らせる為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と話し合い、今までの生活状況や、素案に思っている事等、聞き取りをしながら関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いが異なる事もあるが、双方が安心してサービスを受けることが出来るよう、間に入り調整しながら方向性を見つける努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の生活を支えるという事を重視し、本人のできること、介助すればできることを見極め、生活全般に関わる物事に対し、その方に応じた支援方法を行っている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、ホームでの様子を伝える手紙を居室担当者より家族宛てに送っている。また、受診同行や不足物品の補充等、可能な限り支援をお願いしている。	受診の同行、外出の支援、面会等、家族は協力的である。また家族以外の親戚の支援もあり事業所にとって強い味方となっている。担当職員はあえて決めておらず、職員全員で利用者一人ひとりに関わるようにしている。毎月送付するお便りは職員が交代で個別に近況を綴り、職員の写真を入れ、利用者、家族、職員が共に身近に感じる事ができ、家族の安心感にも繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族、友人、知人が訪ねてきた際の他入居者を含めたおもてなし等で、次回も訪れやすい雰囲気作りを大切にしている。	日頃の関わりの中で利用者の言動から懐かしい事柄や思いは家族に伝えるようにしている。以前には比較的軽度の利用者と家族の希望で入居前まで通っていたデパートに一人で出かけていた方もおられた。リスクも念頭に入れながらも「利用者ができる事は何か」と常に検討し、できるだけ今までの繋がりを継続できるよう支援して行こうと考えている事業所である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の心身の状態や対人関係を観察しながら、時々で間に入るなど、和やかな雰囲気を作れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節のお便り等を通し交流を続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話や言動の中にヒントを見つけ、思いに添った支援が出来るよう心掛けている。また、運営推進会議への利用者全員参加を実践しており、意見や要望を聞き、支援に生かしている。	入居前には入居前情報シートを基に、本人、家族の思いや意向を詳細に確認している。また家族にアセスメント表を渡し、本人の生活歴やライフスタイル、価値観等を記入してもらい、入居後の生活が安定するようにしている。日々の生活の関わりの中から見えてくる思いや意向、行動や表情を汲み取り目線を合わせ対応し、気付いたことは業務日誌等に記録して全職員で共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の家族、本人への聞き取りや、普段の会話の中から把握できるよう努めている。	一人ひとりの馴染みの暮らしが送れるように、入居前に本人、家族から趣味や得意なこと、地域での関わり等、小さな事柄も伝えてもらい、その人らしい生活リズムが整うように情報を得ている。前任のケアマネージャーやサービス事業所からも情報提供してもらい、生活している場所、住まいを変える意味、重みを受け入れて、環境整備に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに目を向け、小さい気付きを積み重ね、情報の共有をし、個々の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は、本人、家族、職員から聞き取りを行い、検討会を開催している。意見を反映させた計画づくりに取り組んでいる。	本人、家族の意向を把握し、日々の生活から見えてくる必要な支援をケアマネージャーが中心となり、全職員から意見を聞き取り介護計画を作成している。月毎に担当を変え全職員が入居者を把握できる体制である。モニタリングも随時行い、それぞれの意見や要望を提案して、その人の現状に合った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の介護記録を個別に作成している。特変時等には別に記録をし、申し送りも行い、情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の支援が受けられない利用者に対し、受診同行や買い物代行等を行っている。複雑な家庭事情(入居前の虐待ケース)の場合には、本人と家族との間に入り、調整を行う、関係各所との打合せを行う等、個々のニーズに合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお茶の間、町内行事等へ積極的に参加している。また、町内を日々散歩し、行きつけの商店で買い物をする中で、顔見知りになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医への受診を継続できるように、医療連携表での情報提供や、かかりつけ薬局の薬剤師とも連携し支援している。また、以前のかかりつけ医への受診が困難な場合は、往診医へ移行できるよう支援している。	本人、家族が希望するかかりつけ医の受診となっている。受診が困難な場合は往診医への移行も可能である。受診時は「医療と介護の連携連絡表」を持参して、日々の状態を医師に伝え、医師からも意見をもらい全職員と共有している。週1回法人の看護師が状態観察を行い健康管理をしている。また薬剤師からも薬の管理や助言をもらい連携を図っている。必要に応じて専門医受診に関するアドバイスも得て、適切な医療を受けられるよう支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期訪問しており、日頃の様子や状態を把握しやすいよう、専用の用紙を使い、お互いに情報を共有している。24時間のホットラインもあり、いつでも助言、指示を貰える。また、必要に応じて往診時の同席や、家族への状態説明等も行っており、協力体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師やソーシャルワーカーに情報交換や相談の機会を設けてもらえるようにしている。入院中は出来る限り面会に訪れる事で、安心してもらえるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前及び必要時には、事業所で出来ることの説明を行い同意を得ている(重度化対応指針)。日頃の様子は、毎月の手紙や、訪問時に行い、状態に変化のあるときには、密に状況説明を行うよう努力している。また、重度化した際の医療への繋がりが上手く、かかりつけ薬局や看護師とも協力体制をとっている。	入居契約時に本人、家族に「重度化対応、終末期ケア対応方針」について、事業所として出来ること、出来ないことの説明を行い同意を得ている。事業所での看取りの経験はないが、今後、本人、家族、医師、看護師、職員と相談しながら対応・方針を決定し、安心して繋がる協力体制を整えて行く方向である。また状態に応じて病院や施設入所への推進支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時に看護師による、症状別の応急手当の講習や、AED講習を行っている。又、看護師による緊急時対応の研修も計画している。	急変時や事故発生時の対応マニュアルは整備されており、ホールの目に付く場所に設置している。AEDは定期的に業者からの訓練実施を受けて、実践力を身に付けている。看護師からも定期的に研修を企画してもらい、緊急対応や事故対応時の対応は全職員が周知している。ユニット同士間での緊急時の連携体制も構築されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行っている。また、地域の自主防災訓練に事業所として参加するなど、地域との連携を行っている。	年2回、消防設備会社が立ち会い、昼夜共に想定した避難訓練を実施している。また地域の防災訓練にも参加して地域との顔の見える関係を築いている。マニュアル、避難場所、避難ビルも理解している。非常食、備品も整備され2ユニットとの協力体制も整っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の方としてではなく、一人一人の人格を大切に声掛けを行っている。また、外部講師による研修を行い、支援に生かしている。	定期的に外部の講師による研修会を開催しており、プライバシー保護、接遇の勉強を行っている。利用者一人ひとりに合った言葉かけや対応を大切にしている。不適切な対応時には、注意し合い振り返りを行い全職員が尊重した対応が出来るように心掛けている。日々の記録や利用者の情報管理も責任ある取り扱いを行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で、本人の意向を確認しながら支援を行っている。運営推進会議への参加でも意見や希望を述べる機会を設けている。また、共同生活においての問題点が発生した場合には、利用者参加のミーティングを行うこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に、全ての介助に置いて無理強いはせず、希望に沿って行っているが、適切な時間での声掛けは行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の着衣はもちろん、外出の際には身だしなみを整えられるよう支援している。また、化粧や白髪染め等、いつまでも若々しい姿でいることが出来るよう、ご家族にも協力を頂きながら配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切る、炒める、和える、盛り付け、配膳等々、自ら「手伝おうか」と声を掛けてくれることも多い。一回の食事の準備をたくさんの入居者様が関わって行っている。	利用者と職員が同じテーブルを囲んで会話を楽しみながら食事支援をしている。調理や盛り付け、配膳、下膳、後片付け等の一連の作業が行える利用者が多く、自ら手伝う環境となっている。日曜日は皆でメニューを決めて楽しい食事会にしている。また外食や行事食を楽しむ機会も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事量のチェックや水分摂取量のチェックは一日を通して行っている。これらを基に、個々に応じて、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態を見極め、毎食後、全員に歯磨きの支援を行っている(声掛け、促し、見守り、一部介助、全介助)。また、毎晩、義歯洗浄剤を使用する場合の支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の意思に沿い、トイレ誘導を行っている。また、失禁のある方についても、紙パンツや適切な尿取りパットの使用により、自立できている。清潔保持については、自尊心に配慮しながら支援している。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。一人ひとりの習慣や身体機能を理解し、さりげない声かけや羞恥心にも配慮して、適切な支援が出来るように全職員が統一した介護方法を修得している。リハパンやパット類は安易に使用せず、使用根拠を検討し、家族にも確認のうえで使用するようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時は胚芽押麦を白米に混ぜ食物繊維を多く摂取できる工夫をしている。また、水分摂取量のチェックは欠かさず行うなど、薬剤ばかりに頼ることのないよう、個々に応じた取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	安全面や職員配置の問題もあり、時間帯の制限はあるが、その範囲内で個々の希望やタイミングに合わせて入浴は行っている。季節のお湯、しょうぶ湯やゆず湯も楽しんでもらっている。	午後からの入浴を基本としているが、自立で入浴できる方は時間帯の制限は設けていない。浴室内の暖房や床暖房、福祉用具の整備もあり、安全に入浴できるようになっている。季節に応じて、ゆず湯、菖蒲湯などの変わり湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自由に過ごしてもらっている。日々のレクリエーション等も強制することなく、個人の意思を尊重しながら支援を行っている。但し、夜間の睡眠を気持ち良いものにできるように、昼間の活動への参加促しは欠かさず、本人が自分の意志で参加できる為の声掛けを工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導を導入していることで、常に個々の薬についての相談ができ、より安全な服薬支援ができています。副作用や、内服薬の変更時の助言や、医師との連携もスムーズに行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、個々の生活歴や日々の様子を観察や会話の中からヒントを見つけ、楽しみや気分転換が出来るよう、個別に合わせた働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気や個々の気分に応じて外出の支援ができるよう努力している。散歩や買い物等、気分転換は都度行っている。また、希望に添えるよう、家族に相談したり、事業所の行事として立案するなど協力しながら支援している。	一人ひとりの希望に応じた外出は可能である。年間行事を計画して、季節の行事や地域の祭り、ドライブなど、日常的に外出を楽しんでいる。施設周辺の散歩や買い物は日課とするほど、外に出る機会を設けている。また地域のコミュニティーセンターの催し物にも参加したりと地域との交流も大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な日用品、衣類等は、外出時自由に買い物ができるよう支援している。ご自身で少額を管理している方も多数おり、行きつけの商店で自由に買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り扱いが難しい為、電話を取り次ぐことや、かける為の支援は都度職員が行っている。 手紙の投函や、必要物品の準備なども支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りをホール内に掲示している。装飾については、派手過ぎず柔らかい雰囲気のを飾るよう心掛けている。ホーム敷地内にミニ菜園や花を植え、皆で栽培している。また、どの居室からも樹木が見え、季節を楽しむ工夫をしている。	共有空間は明るく日当たりもよく、木の温もりを感じる柔らかい雰囲気の作りとなっている。事業所の窓からは、近くのお寺が見え、景観的にも心和むものとなっている。利用者もソファに座り季節を感じている。ホールには畳の部屋があり、利用者が集う場所となっている。季節の飾りつけを利用者と共に作り、ホール内や玄関等に飾り、季節感を醸し出している。空気清浄機や加湿器なども設置され、室内環境にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースには食卓椅子の他、ソファや、畳コーナーがあり、思い思いの場所で過ごすことができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具を自由に持参してもらっている。	居室は馴染みの物の持ち込みは自由である。利用者、家族と協力しながら、その人らしい居室作りを行なっている。どの部屋からも樹木が見えて季節感を楽しめるものとなっている。トイレも近い距離にあり、心地良く安全に生活を送れるような部屋の配置になっている。部屋の掃除は、個々の出来る能力を活かし、自立した生活を送れるよう工夫もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	場面場面で洗濯畳、料理作り、配膳、掃除等、個々の「できること」「わかること」を活かし、自立した生活を送れるよう工夫している。		